

令和5年度第1回 小金井ボランティア・市民活動センター
運営委員会 議事録

1. 日 時 令和5年7月20日(木) 午後6時00分～午後7時23分

2. 場 所 社会福祉協議会 2階会議室

3. 出席者 運営委員(10名)

山路 憲夫 委員長 川畑 美和子 副委員長
加藤 弘子 尾崎 庸子 渡辺 一弘 竹村 雅裕
森田 真希 中川 法子 松嶋 有香 榎本 朝美

事務局

中谷 行男 常務理事 室岡 利明 事務局長
小早川 良信 地域福祉係長 近江屋 哉子 主任
嶋田 直人 主事 久保田 朱里 主事
新開 由季子

市民協働支援センター準備室

北脇 理恵 市民協働推進員

4. 配付資料

- 1) 令和5年度小金井ボランティア・市民活動センター運営委員会(第1回)次第
- 2) 小金井ボランティア・市民活動センター令和4年度事業報告
- 3) 令和5年度さくらファンド申請団体(審査後に審査結果と差し替え)
- 4) 令和5年度小金井ボランティア・市民活動センター令和5年度事業進捗状況
- 5) 小金井市市民協働支援センター準備室の活動状況(令和5年度4月～6月)
- 6) 小金井市社会福祉協議会の子ども・若者支援事業について

5. 議 題

- 1) 新任委員の紹介、小金井ボランティア・市民活動センター職員の紹介
- 2) 令和4年度事業報告について
- 3) 令和5年度さくらファンドの審査について
- 4) 令和5年度事業の進捗状況について
(令和5年度事業予定及び令和5年度4月～6月期までの事業実施報告について)
- 5) 小金井市市民協働支援センター準備室の活動状況
(令和5年度4月～6月期までの報告について)
- 6) 子ども・若者支援事業について
- 7) その他

6. 議 事

<開会>

山路委員長(以下委員長)は、本日の運営委員会の議題を示し、運営委員会は傍聴可能である事から、事務局に確認し傍聴人がいないとの報告を受けたのち、議事を進行した。

<議題1 新任委員の紹介、小金井ボランティア・市民活動センター職員の紹介>

委員長

それでは、議題1について、事務局よりお願い致します。

室岡事務局長（以下事務局長）

事務局長の室岡でございます。今日はよろしくお願い致します。

次第の方にもございます通り、運営委員が変更になっておりますのでご紹介したいと思っております。

市のコミュニティ文化課から選出を頂いておりました河田委員が異動により変更になり、令和5年4月より中川委員が着任されておりますのでご紹介いたします。

それから、市の生涯学習課の関委員も市の異動がございまして、4月より三浦委員が着任され、運営委員になっておりますので、紹介いたします。

それでは中川委員が来ておりますので、ひと言お願い致します。

中川委員

4月から、コミュニティ文化課に、河田に代わりまして着任いたしました中川と申します。よろしくお願い致します。何年か前に地域福祉課にいた事がございまして、社協の皆様、関係者の皆様で顔見知りの方もいらっしゃるのでは、懐かしいなと思っております。よろしくお願い致します。

事務局長

つづきまして。令和5年の6月16日付けで社協の理事の方が新たに改選になっておりまして、前におります中谷常務理事が就任をいたしておりますので、ご報告したいと思います。常務ひと言お願い致します。

中谷常務理事

皆さんこんばんは。新しく、小金井市社会福祉協議会常務理事になりました中谷行男と申します。どうぞよろしくお願い致します。3月までは行政の方におりました。顔見知りの方もおられますけれど、また、新たな気持ちで、しっかりと取り組んで参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

事務局長

続きまして、令和5年6月1日付けで地域福祉係に1名、職員が配属しております。ボランティアセンター業務を担当します新開でございます。

事務局

6月1日からこちらで勤務させて頂いている新開由季子と申します。よろしくお願い致します。立川や東村山で小学校、中学校関係の仕事をしてきました。今度は、

地元で何かお役に立ちたいと思いましたが、あまりにも畑が違っていて勉強する事がいっぱいです。頑張っていきますのでよろしくお願い致します。

事務局長

はい。以上でございます。

委員長

改めまして、よろしくお願い致します。

<議題2 令和4年度事業報告について>

委員長

それでは議題の2 令和4年度事業報告について事務局よりお願い致します。

事務局

事前配布させて頂いた資料の付箋の2の小金井ボランティア・市民活動センター令和4年の事業報告のページから、一部抜粋しながら説明させて頂きますのでよろしくお願い致します。

昨年度第3回の運営委員会でも報告した部分は割愛させて頂きますが、「市民活動助成金の実施」というところで、昨年度予算80万円でさくらファンドを実施させて頂いたのですけれども、執行額が70万1,824円となっております。これは年度末までの活動の報告書を提出して頂いた結果、その中で3団体から返還金の申請がありました。そのうち2団体は全額返還、1団体は一部返還となった結果、金額は70万1,824円となっております。

「夏のボランティア体験」は、令和3年度はコロナでできなかったのですが、3年ぶりに復活させて頂いたものです。当初15の受入れ施設、団体があったのですけれども、当時コロナ第7波の影響で、3つの施設で受入れ中止となっております。後程、今年の報告もさせて頂くのですけれども、今年度は受入れ団体も少しずつ増えてきております。

「発達性ディスレクシア啓発講座」は初めて行わせていただきまして、Zoomと現地のハイブリッドでやらせて頂いて、現地が16名 オンラインで37名の53名に参加していただきました。

2ページ目の一番上の「精神保健福祉ボランティア養成講座」も、コロナ中は中止だったので、3年ぶりに開かせて頂いて、現地が15名 オンラインが7名の22名の申し込みがありました。

事務局

それでは次に、2 ページの下の方から、「地域福祉ファシリテーター養成講座」について、こちら、令和4年9月22日から令和5年1月19日まで11回開催させてもらいまして、ルーテル学院大学で開催いたしまして、小金井から11名に参加していただきました。令和5年1月19日に最終回を迎えまして、小金井からは3つの市民活動のグループが誕生しました。その活動については後ほど、資料の方には無いのですが、パワーポイントのほうで後程どんな活動してるというようなことを説明させていただきますのでよろしくお願い致します。

「ふれあい・いきいきサロン助成金事業」について説明させていただきます。令和5年3月末で59団体に登録して頂いて、そのうち助成金を申請して頂いた団体が29団体ございまして、執行額は63万5,650円となっております。10件の返還金もございましたので、総額が73万9,800円と、執行額63万5,650円となっております。

事務局

その下の、「こがねい年越し「食」支援事業」のところで、ここも昨年度報告させて頂いているのですが、改めまして、食品の寄付の件数で言いますと287件、点数で言うと5,233点でした。食料品の配布数に関しては困窮世帯が174名分、昨年度は学生も対象にさせていただきました。学生が100名12月26日から28日の間3日間で来所されまして、合計274名分の食料品を配らせていただきました。

食料品の寄付の件数や点数に関しては、一昨年よりも多く頂いてはいたのですが、食料品を希望する方々の数もかなり増えておりましたので、最初は、一応6食分という形で配れたのですが、学生の分に関してはちょっと足りなくなってしまう、後半は半分ぐらいの食料、半分よりちょっと少なかった場合もあるのですが、数多く配らせていただきました。

その他に、袋には入れられないような、例えばお米5kgとかそういった袋ができていた場合もあるので、そういったものを学生にもお渡しさせて頂いております。

次のページ、災害ボランティアセンターの部分です。「大規模災害対策について」これも久しぶりですが、市の総合防災訓練、昨年度は市立第1中学校で行われ、そこで災害ボランティアセンターの設置訓練をさせていただきました。社協職員12名が参加しております。

その下の「災害ボランティアミーティング」を数年ぶりに開催させていただきました。現地とオンラインのハイブリッドの開催で、オンラインでの参加者の数は押さえておりませんが、14名が現地で参加して頂いております。

「災害時のネットワークの形成」というところで、昨年度はライオンズクラブの例会に参加させていただいたり、5月8日には減災フェスタというイベントに参加させていただきました。

下の方の二つ、「防災のまち歩きについて」ですが、コロナ禍の中でほとんど申し込みがなかったのですが、昨年度は2件の防災のまち歩きを行わせていただきました。今回、両方とも町会ではありません。生活クラブの東町コミュニティというところがありまして、その団体が東町1丁目エリア、東センターを拠点にして開催いたしました。

もうひとつの方が、3月31日、年度末に行わせて頂いたのですけれども、「はけの道防災の会」というところで、はけの道町会の有志の方が、中町1丁目エリア、だいたい小金井二中周辺なのですが、そのエリアで参加させていただきました。両方とも、参加者数は少なかったのですけれども、こちらも久しぶりに、防災のまち歩きができたので、人が少ない中でも、よりいろいろ意見を出し合うことができたのかなと思っています。

昨年度の事業の様子を写真にまとめてあります。

事務局

そのスライドの方をご覧頂ければと思うのですけれども、先ほど、令和4年度「地域福祉ファシリテーター養成講座」の方でグループが立ち上がったと報告させて頂いたのですけれども、具体的に3団体が立ち上がりまして、左からこさんぽ、ルチア、コバンザメと書いてあるのですが、一番左のこさんぽは、野川公園で月1回お散歩しますよ、どなたでも大丈夫なので一緒にお散歩しますよ、というような団体が1つ立ち上がりました。真ん中のルチアさんなののですけれども、リズム体操貯筋と書いてあるのですけれども、こちら、4月6日貫井北分館で、私、久保田も参加させてもらいました。初回だったので15人くらい参加者がいらっしやっていて、かなりクオリティの高い活動をされているなというような印象がありました。

ちょうど今日も、開催されていたところだったので、アクティブに活動されている団体なのではないかなと思いました。

右のところコバンザメと書いてあるのですけれども、こちらの団体は活動自体何をするかがまだ良くも悪くも決まってないって言う団体で、小金井市内のいろんな市民活動をされてる団体に出向いて行って勉強して、何ができるのを考えていこうというような団体になってまして、この右の写真、「森のこみち」という社協の近所にあるサロンなのでも、こちら講座の参加者の方が、コバンザメのグループの方が参加し

て勉強している様子です。私が一番、市民グループの方々と結構関わらせて頂いたので、今後どうなっていくのか楽しみといったところです。

こんな感じで、ルチア、こさんぽ、コバンザメというような3団体が立ち上がっております。

次に「夏のボランティア体験」ですが、去年の8月に、左の方の清掃のボランティアをされてるところに、久保田と嶋田の方で参加させて頂いたので、その時に撮った写真です。右の方がしんあいのぞみ保育園の方で、これも、私、久保田が撮影させて頂いたものなのですけれども、こういったボランティア体験をしている様子を撮影させて頂きました。

これが「発達性ディスレクシア^注 啓発講座」の令和4年度の方の講座の様子で、真ん中に写ってるのが宇野先生というディスレクシアの先生なのですけれども、こういった講座も開催させて頂きました。（^注 ディスレクシア：読字障害。文字を読むことに困難がある障害）

で、次に「こがねい年越し「食」支援事業」なのですけれども、左の方が、社協の駐車場のところに、こんな感じですね、左のスライドのように、「食」支援の窓口を作っている方々に食品を配るというような活動させて頂きました。右は、集まった食品です。

事務局

「災害時のネットワークの形成」というところで、皆さんから見て左側、オレンジ色のベストをたくさん着ているのが職員です。市の総合防災訓練に参加させて頂いている様子です。

「災害ボランティアセンターの設置訓練」とは言いつつ、それぞれ机のところで、例えばマッチングであったりとか、ボランティアの受け入れとか、資機材の貸し出しの部門という形で設定させて頂いて、その部門部分で質問であったりとか、この場所でこういうことをやっていますという説明をさせて頂いている形です。

実際に民生委員の方にも入れかわりお手伝い頂きました。

民生委員の方は黄色いベストを着ていたりというところで気が付くのかなと。手前の方は手話の方なので黄色いゼッケンを着けてたりするのですけれども、いろんな方に見に来て頂いております。

となりの右側の写真です。これが東町1丁目周辺で行われた防災のまち歩きの様子で、この日は、小学校2年生のお子さんや親御さん、地域の方に参加して頂きました。この写真の奥の方が病院ですね。武蔵野中央病院の写真ですけれども、だいたい1キ

口ぐらいをグルッと歩かせて頂いて、防災に関する資源を探したり、今回お子さんも一緒に参加されていまして、小金井では、何かあった時に駆け込める「カンガルーの家」というのを市の事業でやっています、その家を見つかったりということもさせて頂きました。

まち歩きルートの中で震災用対策井戸が設置されているお宅がありましたので、そこに立ち寄らせて頂いて、その井戸水は水質検査を年に数回行っているのので、飲み水として使えますので、その水を飲ませて頂いたりしました。

この時は、防災に関することであつたりとか、プラス防犯に関する事で学校の先生から、こういうところを気をつけなさいよ、って言われたりとか、しているところを、お一人、白い上着を着ている方、地域の方だったのでそういった方に教えて頂いて、小学校、小学生だから知っている情報であつたり、そういったものの情報共有であつたりとか、出来たのかなというところですよ。以上です

委員長

どうもありがとうございます。ただいまの、令和4年度事業報告についてですが、なにか質問、ご意見があれば頂きたいのですが、いかがでございましょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、この件については、とりあえず質疑を終了いたします。

<議題3 令和5年度さくらファンドの審査について>

委員長

議題3 令和5年度 さくらファンドの審査について 事務局よりお願い致します。

事務局

正面（パワーポイント）にも映っているのですが、事前にお配りさせていただきました資料の付箋の3 令和5年度さくらファンド申請団体を見て頂ければと思います。今年度に関しましてはさくらファンドの予算が100万円となっております。

さくらファンドの、この表の査定額のところには金額が入っているのですが、これは6月29日に正副委員長と榎本委員、社協事務局で事前審査をさせて頂いた結果の金額になります。

今回は申し込みが26件で、申請額が173万2,946円となっております。4ページですね。

例えば「こんぺいとう」、新規となっているのですが、数年ぶり、令和元年度ぶりの申請ですので、間が空くと新規というところもありますので、今回は間が空い

た団体も数団体で、久しぶりに申し込んで頂いたというところもあります。もしくは、続けて申請して頂いて、例えば「小金井史談会」なのですけれども、ここも新規となっているのですけれども、昨年度もお申し込み頂いていまして、昨年度で同一事業は3回目ということでしたので、今回新しい事業というところで新規とさせて頂いております。

「小金井市対面朗読の会」の理由のところにPCの保管場所の確認と書いてあるのですけれども、ここは事前審査で、今回、対面朗読の会がパソコンであったり、そういったものを申請して頂いているところでは、個人に帰属しないものという形になっており、パソコンの保管場所の確認は必要というところでしたので、ここは事前に確認させて頂きまして、小金井市図書館の録音室のところで保管をさせて頂くという形になるので、普段は個人で利用ができるような形ではないという話をいただきましたので、査定額のそのまま大丈夫かなというところで調整させて頂きます。

あと、すいません。14番の「ハチドリ」なのですけれども、誤字がありまして、1行目の左端の方に声に明るい「声明」とあるので、すいません。命の生命ですね。すいません。生きる命の生命で、「生命は一瞬の蜃気楼のように」というところで、すいません。失礼いたしました。

今回、申請頂いたうち3団体で査定額がゼロとなっているところがございます。7番の「特定非営利活動法人 小金井市弓道連盟」なのですけれども、今回、団体の内部のイベントですね。市民の方に広くというよりは、申請上、弓道をかなりやっている方じゃないと参加できないように見えましたので、団体の内部のイベントということでゼロ査定とさせて頂いております。

13番の「MOA美術館小金井児童作品展実行委員会」ですけれども、昨年度も申請頂いて、昨年度もゼロ査定という形ですけれども、事前審査の中で出たご意見としまして、この「MOA美術館」という冠がありますので、実行委員会の方からの発言では、そこから資金の提供とかはないという形なのですけれども、名前をこう使われている以上ですね、また繋がりがいいことというところが、否めないというところがありますので、ゼロ査定という形にさせて頂いております。

「ハチドリ」に関してなのですけれども、会場費という部分でいろいろ申請を頂いているのですけれども、年度内に実施できる事業ではなかったというところで、ゼロ査定とさせて頂いております。査定額をご覧いただきまして、一番下ですね。今回、99万6,000円という形で、事前審査の方で金額を出させて頂きました。皆様からご意見を頂ければと思います。よろしくお願い致します。

委員長

どうもありがとうございました。先ほど（議題を示した時に）、この（審査）結果の報告というふうに申しあげましたが、これはあくまで事前審査でありまして、私たちが関わったのはその審査した案と言う事ですね。ここで改めまして、皆さん方のご意見、ご承認を頂きたいと思います。いかがでございましょうか。これについて、先ほど事務局のほうから詳しく報告いただきましたけれども、なんかこの点について。

はいどうぞ。

渡辺委員

査定の中で3件、査定ゼロとなっていますけれど、特に7番の弓道について、これは体育協会の方から体育祭の予算として出ていますので、この項目を見ると、これ予算出しちゃうと体育協会とさくらファンドで重複してしまうのではないかと考えています。これは的確な判断でゼロになっていると思います。

委員長

あと、いかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

それではですね。この案で承認ということで、さくらファンドについては、こういう形でさくらファンドを支給するというように決定させて頂きたいと思います。

事務局

決定額の入った書類を配布させて頂きますのでよろしくお願い致します。

委員長

同じ数字なのに、何か意味があるのですか。

事務局

一応、決定額として金額を入れさせて頂いている、というところです。

毎年、例えば、いま、事前資料でお配りしたものは、案となりますので、これで決定したと、社会福祉協議会の会長の方にちょっと確認をして頂く形になります。

委員長

わかりました。

という事で、よろしゅうございましょうか。

<議題4 令和5年度事業の進捗状況について>

（令和5年度事業予定及び令和5年度4月～6月期までの事業実施報告について）

それではですね。議題4 令和5年度事業の進捗状況について事務局よりお願い致します。

事務局

6 ページのところですが、令和5年度の事業進捗状況についてご説明させて頂きたいと思えます。まず、6 ページの真ん中あたりの「団体交流会の実施」というところをご覧頂きたいのですけれども、こちらの方が、令和5年9月30日土曜日の10時から、社会福祉協議会の方で小金井団体交流会、「小金井市にこんなのがあったらいいな」というタイトルの下に市内の市民活動団体を対象とした情報交換の場を設けようという交流会になっております。

内容といたしましては、参加者の方にいくつかのグループに分かれて頂いて「こんなのが欲しい」、「言いたい放題 支援活動」と銘打ちまして、できる・できないは一旦関係なく、団体としての方向性であったり、目的であったり、アイデア・気づきなど、参加者の方に思い思いに語って頂きたいというようなテーマになっております。

交流会の目的ですが、自分たちの所属している団体の分野についてはわかるけれども、他の分野はわからないようなところもありますので、また市民活動をしているからこそ思っていることだったり、気づきだったりがあると思うので、そういったことを共有して頂ければと思えます。

こういった場でのあるかもしれないのですけれども、こういった交流会を開いて、自団体が何か活動をやりたいと言うような事になった時に、言ってしまった側の責任で、言ったら自分がやらなきゃいけないと言うような事もあるかとは思っているのですけれども、そういった事には捕らわれずに、ざっくばらんに言いたい放題やって頂ければというようなできるだけフリーな交流会になればなというふうに思っております。

またそれで出た課題とかをその場で解決するだけでなく、課題の洗い出しをして頂ければと思っております。以上の内容の交流会の開催を考えております。

下のところの「子ども・若者支援事業」に関してなのですが、次第の6の方でまた細かくご説明させて頂きますので、こちらの説明は割愛とさせて頂きたいと思えます。

次なのですが、7 ページに移って頂いて、真ん中の方で「夏の体験ボランティア」のところなのですが、令和5年6月30日と7月1日に事前ガイダンスを行いまして、7月3日から受付を開始しております。今日現在で45人ほど申し込みを頂いております、昨年度が34人だったので、もうその数を超えている状況で、だいぶ盛況な状態です。

また、昨年度も実施しました「おたよりボランティア」の方も、今年度も継続して実施しております。子供会にも、声を掛けさせて頂いて、はがきを書いて頂くというような活動を行っております。

次に下の「発達性ディスレクシアボランティア啓発講座」です。先ほど令和4年度の報告の時に、12月に令和4年度のディスレクシア啓発講座をやらせてもらいまして、今年、令和5年5月22日と29日にまた、啓発講座を開催させていただきました。次の月曜日ですね、7月24日月曜日に、令和4年度の講座に参加して頂いた方と、令和5年度の講座に参加して頂いた方を対象とした交流会を予定しております。

事務局

その下ですね。「こがねい社協福祉マルシェ」という形で、これも今回、今年度初めて実施させて頂くものになります。11月23日木曜日、祝日なのですがけれども、実施に向けて調整しているところでございます。社会福祉協議会の東側の駐車場を会場にして、福祉施設や市民団体の方に参加協力して頂きまして、物販を行う予定になっております。ここにありますように、地元の商店会の方や、農協の関係者の方にもいろいろご相談をさせて頂いている途中でございます。今日はお休みなのですがけれども、海老原委員にもご協力ご相談させて頂いているところで、当日も海老原委員も和菓子屋さんです。当日出ていただけるような形で今調整をしているところでございます。

お話をしている中で、例えば農協の関係者の方とかと、ちょっとお話をさせて頂いたところ、その前の週ぐらいに農業祭があるので、その農業祭が終わってればある程度作物とかそういったものもお出しできる可能性もあると、やっぱりその状況になって見ないとわからないので、何とも言えないのですがけれども、そういった場面の協力ができるかもしれないという言葉も頂いております。農協青年部の方で、例えば綿あめの機械とかもお持ちというところで、日にちがあれば、農協の青年部の都合が合えばですね、そこも機械を貸し出しと、あと人も協力できるかも知れません。というところで、またあの、依頼文を頂ければ調整させて頂くという話も、現在頂いているところでございます。

社協の東側の駐車場で行いますので、ちょっとスペースが限られているという部分もありますので、この近くの商店街の方に相談をさせて頂いて、西の方に行ったところに青木屋という和菓子屋があるので、そこにちょっと相談すれば、一部、駐車場を駐輪スペースとして調整できるかもしれないので、近づいたらご相談頂ければ、という形でお話も頂いておりますので、商店会宛に先ず、また、ちょっとお便りをお送りさせて頂いて調整させて頂くという形になっております。

今回、実行委員会形式をとっておりませんので、社協の方でメインで動くという形になっておりますので、また皆様からいろいろご意見とかご相談させて頂ければと思いますので、よろしく願い致します。

あと先ほどの「子ども・若者支援」のところで、後ほど説明させて頂くのですが、職員の見解交換会というのを7月18日に実施させて頂いておりまして、また8月にも実施する予定になっておりますので、そこでの進捗を、また次回、報告できるかと思っておりますのでよろしくお願い致します。

ページで言うと9ページ目になりますが、また今年度ですね、10月22日の日曜日に市の総合防災訓練が実施される予定になっております。今回の会場は農工大さんとなっておりますので、また、調整して参加するようにしていく形になっております。よろしくお願い致します。以上です。

委員長

ありがとうございました。ただいまの令和5年度事業の進捗状況について事務局より報告いただきましたけれども、これについて、何か、ご質問ご意見を頂きたいと思っております。いかがでございましょうか。いかがですか。

榎本委員

東京ボランティア・市民活動センターの榎本です。「夏の体験ボランティア」についてお伺いしたいのですが、私も夏の体験ボランティアの担当なのですが、丁度うちのセンターは今週末にガイダンスを開催して、そこにも参加者が来る予定なのですが、小金井の場合は、これは事前ガイダンスを受けた方が、今、申し込めるとい形ですか。それとも、今からでも新しく申し込みたいという方の受け入れは可能ですか。

事務局

事前ガイダンスを6月30日と7月1日にさせて頂いて、そこでの参加者の方がほとんどではあるのですが、何人か事前ガイダンスに来れなかった方々もいらっしゃるのですが、そういった方々には個別で対応というような形で、今、4～5人くらい応募して頂いていて、ガイダンスも行ってお申し込みをお待ちしているというような状態があります。

榎本委員

うちのガイダンスにもぜひ、紹介させて頂こうと思います。

委員長

あとはいかがでございましょうか。

よろしいでしょうか。

それではですね。令和5年度事業の進捗状況についての質疑を終了いたします。

<議題5 小金井市市民協働支援センター準備室の活動状況>

(令和5年度4月～6月期までの報告について)

委員長

議題5に移らせて頂きます。市民協働支援センター準備室の活動状況について、事務局よりお願い致します。

北協推進員

市民協働支援センターの北協と申します。

私の方からは令和5年の4月から6月現在までの活動報告をさせていただきます。ページ数では10ページですね。付箋の5番目のところになっております。準備室は平成20年2月策定の小金井市協働推進基本方針に基づいて、市民活動団体と行政、また市民活動団体間の協働に関して、ご覧の7業務を行っています。

下の方の3番、活動内容の方になります。1個下がりました、下の1相談・コーディネート業務です。4月5月6月、こちら実数が書いております。実際は1つの案件に対して最低でも3回ぐらい相談があり、1回で終わる方はあまりいません。重複してる部分ありますが、カウントは実数でカウントさせていただきまして、3ヶ月で37件の相談があったということになります。この37件ではどういった内容なのかというのが、1個上のトピック、4月5月6月、こちら主だったものが載っております。こちらの方でちょっと特徴的だったもの2点だけ説明させて頂きたいと思います。

4月の「委員の福祉現場の見学、施設紹介」とあります。こちらはですね、市の職員から連絡がありました。小金井市地域福祉推進委員の方が、障害者福祉の現場に直接行って、ボランティアなどをしながら理解を深めたい。もっと福祉の現場を勉強したいという、何ともありがたいお言葉 いただきまして、そんな方を、快く受け入れてくれる場所はないですか。という相談でした。お世話になってるNPOの方に相談いたしましたら、快く受け入れていただきまして、むしろそういう方が1人でもいるのが嬉しくて、是非来てくださいということでした。坂下に在ります障害のある方の放課後児童デイサービスをされているNPOの方を紹介しました。

もう1つはですね。障害の方がサロンを開いていて、今回は車椅子の人が来ますよ、というお話を伺ってました。ちょっと距離が遠かったのですが、そこは月1回でサロンもやってるので遊びに行ってくださいということで紹介させていただきました。その後日談なのですが参加された委員の方が、とても喜んでくれまして、せっかくなので、次の市の委員会の最後に、実際に訪れての感想を他の委員に報告して、学んだこと

とか共有したい、そういうことをやってみようかと、今回の体験の広がりまで考えてくださったことがありました。

もう1つだけ紹介させていただきます。もう1つが6月の「市内の居場所の状況を知りたい」こちらの内容になります。こちらは介護支援事業のNPO法人からの連絡でした。NPO法人として、自分たちの事業だけではなくて、地域へ貢献するために地域とつながるために新しい事業を考えたいということで、これはもちろん営利目的ではなくて、やはり別のところで考えたい。もうちょっと広がりを持ちたいということが、その方たちの中の会議で出ますが、その後話がなかなか進まない。自分たちが持っている情報が足りなくて話の広がりが見えないので、社協の方で小金井の居場所についてのお話を伺いたい。小金井の現状を知って、それからちょっと私たちの方に持ち帰って、この話を広げていきたいということでご相談いただきました。準備室の方で対応させていただきました。準備室の方では市民活動団体リストを市から委託され、団体リストを作っております。こちらの紹介ですとか、あと市の方で作ってる、この「シニアの方の地域とつながる応援ブック」ですとか、あとボランティアセンターの方でやっているサロン活動、先ほど助成金が出ているというお話ありましたが、そういった一覧の表を作りまして、お渡ししまして、それを見ながらヒアリングをしながら、ではこんなことどうですか。とか、あとどの分野が多いとか、あと地域性でどういうふうに固まってるかそういった質問を受けながら、お話しさせていただきました。今回のお話で結構全体像が見えてきたので、それを持ち帰ってNPO法人の方で今後どういった広がりを見せるか、会議の中の参考にさせていただきますということで、こちらの相談の方は終わりました。主だった相談は以上になります。

次のページ開きまして、11ページになります。(1)連絡手段 それから(2)案件に含まれる内容、こちらは相談の方の中身の方の話しになっております。先ほど、実数を報告しましたが、こちらは延べ件数で書いてありますので重複部分もあります。ご了承ください。

2番の情報収集ですね。こちらは毎月準備室の方には、他市の情報ですとか、直接送られてくる資料などあります。そちらの方を一つ一つ見まして、どういったことをしているか、こちらの方でも参考になることはないかと情報収集をさせて頂いております。

3番の方ですね。情報の発信、こちらの方、あの毎月のことなのですが、ぼらんていあこがねいの後ろに「市民協働応援ニュース」を設けて準備室に関わることでとか、助成金とか、そういった団体が課題とされていて、こういう情報を欲しがっていた

な、みたいなことを覚えておいて、それに関わることを紹介するように意識しております。

あとはNPOの運営に関わる講座などもありますので、そういったものを紹介させて頂いております。

2番のブログの方になります。こちらはですね。市内のNPO法人とか、あとは市民活動、それから市の講座とか、市民の方が興味ありそうなことを掲載させて頂いております。アクセス数の推移はご覧の通りになっております。こちらを見て毎回不思議だなと思うのが、掲載数とアクセス数が比例しないというか、その月によって色々バラバラにあって、どういうものが興味あるのかなと見るんですが、その時によって全然違い、半年以上前に出したものがまた上の方に上がってきたりとかもするので、広くいろんな方が見ているなど思いながら見ております。

4番目の方ですね。小金井市コミュニティ文化課とのミーティング。こちら計3回とありますが、実際は計3回ではなくて、それ以外にも電話・メールで随時連絡を取りながら連携しております。それ以外の「各種会合・行事等への参加・協力」。こちら5月に福祉NPO法人連絡会、6月にNPO法人連絡会への参加がありました。こちらは、参加以外のところで開催についての相談などや、その時に出ていた課題などそういったものの相談・電話があったりとかしますので、参加にとどまらず、それ以外の連携などで大変お世話になっております。

市民活動団体リスト。こちらの方は特に今回、更新等はしておりません。7月を予定しております。

次のページに行きまして 行政への協力です。こちらご覧の通りで、計3件となっております。4月の方に協働提案、今年は新しく行政提案というものが加わりました。市民提案型と行政提案がありましたので、いつもの2倍忙しく、4月5月は新しいことを始めようと思ってる団体もすごく多く何かやってみたいという方がいらっしやって、相談数が多かったように思われます。今は現在進行中のNPO法人派遣研修、こちらの方ですね、市の職員がNPO法人のことを知り、これから協働する相手として相手のことをより深く理解するためにとっても貴重な体験になると思います。こちらの方の調整・マッチング、仲介などのいろいろな手続きを準備室は窓口をさせて頂いております。

7番の方に「講習会、研修」こういったものに参加しておりまして、日々新しい情報の方を仕入れるように意識しております。

8番。こちら、今まで記入をしたことはなかったのですがこども食堂連絡会のメーリングリストがものすごく活発になってきました。こども食堂特定の助成金だったり

物品提供、そういったものがかなり出てきました。なので新しく記載するようにいたしました。こども食堂連絡会に入って、こちらの情報を届けておりますが、結構手を出しやすいというか気軽に応募しやすいものが多くて、皆様からとても好評頂いております。では準備室の方からは4月5月6月の報告。以上になります。ありがとうございました。

委員長

どうもありがとうございました。

ただいまの準備室の活動状況についての報告ですが、いかがでございましょうか。

何かご質問・ご意見があれば頂きたいのですが。

ずいぶん、いろんなことをやっておられるのですね。無ければ、これはこれで終わりたいと思いますが、よろしうございましょうか。

<議題6 子ども・若者支援事業について>

委員長

はい。それではですね。議題6 子ども・若者支援事業についてです。これについて、事務局より説明をお願い致します。

事務局

令和5年度から社会福祉協議会では子ども・若者支援事業について検討を始めております。地域の生活課題や個人・家族の福祉ニーズの多様化、複雑化が進んでいて、特に子ども・若者を取り巻く環境は、虐待・貧困・ひきこもりとか、ヤングケアラーとか、そういったところが社会問題化しています。コロナ禍になって、より社会福祉協議会に相談に来る若い方がすごく増えているなどというのを感じています。貸付の事業など実施している中で貧困に陥って困ってる状況になっている若い人たちを見られました。社会福祉協議会ではそのような子ども・若者を対象とした事業を進めていきたいと思いで目的としています。令和5年度としては、まず検討を始めるということなので、支援者・関係機関へのニーズ調査、ヒアリングの方を進めていっております。

資料の中央に令和5年度 事業計画とありますが、今回ボランティアセンターの事業計画と福祉総合相談窓口での支援の状況をこちらに掲載しております。

次に子ども・若者に関する事業の進捗状況をご説明させていただきます。

現状、視察ヒアリング等を6月頃から進めているところです。子どもの居場所事業推進連絡会という子育て支援課の方で実施しているのですが、社協が子ども食堂連絡会を実施しておりますので、合わせた連絡会になっております。こちらの6月21

日に私の方でも参加させて頂いております。あと、青少年自立援助センターに7月5日に訪問させて頂いています。これは福生市にありますセンターになります。主にひきこもりの青年とか就労支援を実施しているところです。7月4日には東京学芸大学の加瀬先生のところにもヒアリングにおじゃましております。社協の今後進める事業についてお話しさせて頂いたり、これから啓発講座を実施する予定なので、講座のことなども相談して参りました。

あと、7月11日には東京サレジオ学園にもお邪魔しております。ヒアリングの詳細を書かれた資料を用意できなかったもので、次回までには資料の方を用意して、もう少し詳しくご説明できたらと思っております。

また先日7月18日に職員意見交換会を実施しましたが、社会福祉協議会の職員が集まって、グループワークをしながら子ども・若者に関する相談がどういうものがあつたのかなどを共有する場を作っています。こちらはまだ報告ができていませんので、次回には詳しく報告したいと思えます。ボランティアセンターの方では、こういった講座の事業を進めていますが、社協では福祉総合相談窓口、権利擁護センター、包括支援センターといった分野に分かれています、いろいろな業種の職員に集まってもらい、話し合いましたが、やはり子ども・若者だからこっちの分野、といった形には分けられないなど、お話を聞いた中で感じました。

地域包括支援センターと関わったところは、高齢者の介護の問題なのですが、実は親が病気でいなくなったりするお孫さんと祖母で住んでいて、祖母が介護状態になり、お孫さんが1人になったりとか、そういう複雑な家庭の問題がありました。各係で今後も連携して、こういった場を設けてですね、事例とか話し合いながら支援の方、進めていきたいと思っております。

あと進捗としては啓発講座ということで、子ども・若者支援の講座を今検討しています。最後に書いているのですが10月2日の方で予定しています。ちょうど学芸大学の加瀬先生に相談に伺った時に、子ども・若者の貧困をテーマにしたところで講座をやってみたいというお話をしたところ、入江優子先生をご紹介いただきました。子ども食堂や子ども・若者の貧困について研究されているということなので、貧困をテーマにして講座を予定しております。まだ詳細はこれから詰めていくというところなのですが、次回までにはご報告できると思えます。進捗状況としては以上になりますけれども、子ども・若者の支援について、皆様のご意見を伺いながら、より深めていきたいと思えますのでよろしくお願い致します。以上です。

委員長

どうもありがとうございました。これからそういう事で社協としてこの問題を全力で取り組もうということがよく分かりました。ただ、具体的に今後どういう形で進めてゆくのかについては、皆さん方、すでに子ども・若者支援等で取り組んでおられる方もいらっしゃると思いますので、皆さん方の実践とか取り組みの状況をちょっと伺いしてですね、ご意見を頂ければと思いますが、いかがでございましょうか。

森田委員

やっと支援事業がこういうふうな形になったな。というのがつくづく感じることで。17年前に「また明日」を立ち上げて、設立以来、問題はずっと続いてきていることでしたので、保育と介護のデイホームをやっておりまして、子供を預けつつ、その親御さんの相談はほとんど、自分が介護している親御さんというケースがとても多かったですね。で、このコロナ禍になって今度はさらに、ひきこもりの子供たちについての相談ですとか、あと、そうですね、大学生たちのその行き場のなさとか息苦しきについての相談。

ただ、現場として、その1つ1つも相談を受け止める中で、そのやはり、全てこの縦割りだからだと思うのですけれども、それぞれの課から相談が直接来るケースもありますし、子家セン（子ども家庭支援センター）から来たりですとか、健康課からとか、子育て支援課から、やはり社協が今後、支援事業をする、この中に是非、コーディネートする機能を置いて頂きたいなと思います。

現場での受け止めているなかで、受け止めつつそれを各課に働きかけて、こちらがコーディネートをしなければならないという状況はとても大変ですし、私達の施設は、それ自体を事業化はしていないので、寄り合い所として、ほぼボランティアで行っておりますので、コーディネーターの機能を厚くしていただけたらなと思います。以上です。

委員長

ありがとうございました。あとはいかがでございましょうか。

なにか副委員長からございますか。

副委員長

終日、小学校、中学校の方にちょっと関わらせて頂いております。小金井市の方で不登校の教室です。別室登校の教室ですが、それを本町小学校今年度の4月1日から市の初めての学校として始まりました。そこに今、参加したりしているのですが、やはり人数が増えてきているようです。完全不登校ではない子供が増えてきて、保護者の方に、あの、時間遅れても一緒に来るとか、あるいは、迎えに来てもらえばいいとか。あ

と「学校へは行きたいけど教室に入れない。」という子供も、ちらほらいらっしゃいます。でそういうところは、今、本町小では、虹色ルームってあるのですが、そこに支援の方が、終日2人で交代で入っていますので、そこで対応していると、その合間に私はちょっとお手伝いをさせて頂いて、子供の様子だとか、あとやはりコロナ禍で子供自体が落ち着かない子供が増えてきているんですね。特に低学年の子供達ってというのがとても授業が受けづらい子供が増えてきているというところで、担任の先生だけではなく、支援員として私ともう一人の方と二人で週3日入っているのですね。専門職としてはもともと、SSWとかそういう方が入って頂いているのですが、それ以外のボランティアの方もやはり入って頂いているっていう状況で、子供たちの落ち着かないところっていう、その行き場所のないところ、気持ちの行き場所のないところ、それを受け止めるところがすごく必要になってくるのじゃないかなと思います。

中学校の方では、やはり問題点が小学校と違いますので、まだこれから考えていかなくてはいけないところがいっぱいあると思うのですが、小学校としてはやはりその辺のところ課題かなというところで、今日で一応終業式でしたので、9月からまた新しい7月私が7月から入っているのですが、7月の経験からして、今日ちょっと校長先生とお話をして、9月からは、じゃあ、不登校気味の方のところへ対応に当たるようになるか、っていうようなところまでちょっとお話が今日ありました。というところで、あまりお役に立っているかはわからないのですが、子供の状況をそういう感じになっております。以上です。

委員長

ありがとうございました。心の状況については、竹村委員の方から何か、付け加えて頂くことがあればお願いします。

竹村委員

そうですね。僕も、子ども・若者支援で、社会的養護という狭い分野ではあるのですが、明日も一件、実はちょっと相談が入っていて、20代前半の女の子なので、すけれども、やっぱりこう、その1つ捉えても本当に、こういろんなことが複合的にある中で、この、子ども・若者支援事業って、当然子供と若者と地続きではありつつも本当にこう幅広なターゲットになってくる中で、実際に今年度はニーズ調査ヒアリングということなので、具体的な事業をやっていくっていうところのフェーズになった時に、社協としてやっぱりこう、いろんな課の所で、多分このコロナ禍って特にいろんな相談が来て、ってところがきっかけだとは思っているので、やっぱり、そこに社協として関わってきた子っていうところを最初の出発点としてほしい。全体を調査しすぎて行く

と、結構ぼやけちゃうところとかは、やっぱりあると思うので、そういった実際のケースというところと、やっぱり社協だからこその、こう持っているネットワークとか強みとかその辺りを整理しながらやっていく、っていうのが、具体化するにあたっては大事なのかなというふうに思います。あと、結構やっぱり何をやるかっていうのも結構大事なのですけど、この間ちょうど、若者支援してたNPOパノラマさんで神奈川にあるところの方の記事を読んでいて、なんかやっぱり何をやるかよりも、そこに誰がいるかが大事っていうのが、子供にとってすごく本当に重要で、うちの施設の対象の子もやっぱりこう、「誰々さんいる」とか、たまに「竹村いるときあるか」みたいな話で、電話来る事があるのですけれど、やっぱりそこらへんっていうのも、すごく、本当に大事なところなので、まだこう、枠なところなので、具体的なコメントまではできないですけども、何か僕もご協力できることがあればと思いますので、いつでも声を掛けて下さい。以上です。

委員長

はいどうぞ。

森田委員

コロナ禍、特に感じてきた事だったのですけれども、あの、三密と言われる中で「また明日」だけではこう受け止めきれない、フィールドを少し広げるといって、その広げ方をどういうふうにするかということはずっと考えてきたのですね。で、異業種、これまでも、培ってきた、その異業種との連携っていうところをもう少し深めようというところで、全く異分野ではあるけれども、だからこその、子どもや若者に対する支援の、その視点というものを加えたいと思って、繋がってきました。で、そんなことをやりながら、この3年半見ていると子供たちが、例えば、「また明日」でやってる、今、地域食堂は子供たち自身が運営をしているのですね。で、今はあの地域の近くの畑もフィールド、学びのフィールドというふうに視点を持ってやっていくと、その中で、例えば、具体的には大根を抜くのが好きなら、それは関わる。で、その大根を抜いている姿を絵に納めるのが好きだから、それで、地域にその活動をアプローチをしたいという子供が現れてくる。で、その抜いた大根を私は売りたいとか、私はそれを調理したいとか、そもそもその学校の学びっていうところには、なかなか適用できないけれども、こういうところで自分というものが活かせるんだっていうことに気づいていく、その子供たちの姿に、すごく学ばされたところが大きかったです。ですから、この、子ども・若者支援ってあなたたちは一方的に支援を受ける側だけではないんだっていうこと

を常に伝えていくということが、その一人一人が何か自分たちの足で立っていて、それを見送って行くっていうことに繋がっていくんじゃないのかなと思っています。

委員長

あの、森田委員の言われた、異業種・異分野というのは、先ほど言われたその、農業、畑とか。

森田委員

農業もそうですし、アーティストの人達、もそうですし、商売をやっている人たちとか、観光まちおこしとか。

委員長

はい、わかりました。

あとは、いかがでございましょうか。

あの、私の方からも若干、3年ちょっと前から、ひきこもりという支援ということで、私は社会福祉法人の理事長を小平のつむぎと言う所でやっている関係からですね、その経験も少しお話しさせて頂きたいと思います。

社会福祉法人はそのところでは障害者支援で、B型作業所とグループホームとあと就労移行支援事業をやっているんですが、その社会福祉法人としては助成金が取れないものですから、私、小平まちづくり研究所っていうところの所長をしている関係でですね、それで、助成金を最初貰った経緯もあってですね、ひきこもり支援を始めたのです。最初は、たまたま社協が、小平の社協が熱心に、家族の会の立ち上げとその支援をCSRの方々が組織されたということで、社協がその活動を始めたのですが、その家族の会の支援を受けてですね、私たちがその家族の会の方々をまず対象に、講演会、これは、東京学芸大学の福井里江先生がその専門ですね、福井先生とそれから私のかつて白梅学園大学の同僚だった長谷川俊郎先生っていうのは、まさにひきこもり支援の専門家のひとりでありまして、彼らその先生方を招いて、先ず学習をしてですね、それでスタートさせたわけですけども、まあその中で、やはり、できるだけその当事者の方々も含めてですね、居場所づくりをという事を、まあ、そこまで意識はしなかったんですけども、まあ、さりげない支援はできないかという事で、まあ、始めたのが3年前でしょ。それで、具体的に何をやるわけじゃない。長谷川先生は、横浜では市から確か5000万近い補助金をもらってですね、ただ、居場所を作って、なんか看板を掲げるわけじゃなくて、ただ長谷川先生ともう一人の支援の人が居て、そこで来られる人をただ受け入れて、具体的に何かプログラムをやるわけじゃないわけですよ。で、私どももそれを一つの参考にして、まあ、色んな方々が来られるのを受けて、まあ、その相談支援

ができる方は相談支援、まあ、色んな話し合いを、相談に乗るとか、それからゲームの場合によってはやるとか、そういう、まあ、それぞれの特性に応じた居場所づくりをやってきました。それが今、もう、補助金は切れたのですけれど、毎月、月に1回、社会福祉法人をやめたOBの方が非常に熱心な方がいらして、彼女を中心にですね、あとボランティアとして関わってくださる方が2人いまして、それで今、社会福祉法人の詮議としてひきこもり支援という事があります。

それで重複になりますけれど、私どもがやってる方々が来られている世代に、子どもはほとんど少なくてですね。まあ10代の高校生の方もいらっしゃいますけれど、だいたい20代から50代ですね、若者と言うよりもむしろ中高年の方が多いんですね。高齢者はいません。高齢者というか、60代以降はおそらくは介護保険の延長線上で地域包括支援センターはですね、今、日常生活総合支援事業をやってますので、その中で様々な高齢者のひきこもりの方々を、これ、制度の狭間にある問題ですから、なかなかそこまでこの自治体も行き届かないと思いますけれども、その支援はしてるということもあってですね、高齢者がそこまで、わざわざ来て、そこに参加するって事はないわけですね。

むしろ問題は子供達だけではなくて、もうちょっと上の世代の人達ですね。若者だけではなくて、その人たちもいらっしゃるの、まあ、そのこのところの世代的にはその線切りは厳密に難しいにしても、中高年も含めて支援していくようなことも、これから場合によってはですね、様々な団体と連携をとって、特に地域包括支援センターや、まあこうかしゃもそうでしょうけれど、連携をとってですね、どうやって役割分担して行くかという交通整理もこれからスタートにしていくにあたって、徐々に必要になってくるんじゃないかということだろうと思います。子ども・若者支援と言う事を中心に、まずやられるのはいいことだと思いますが、その線引きをこれからどうしていくのか、その連携をどうしていくのかということも考えて頂きたい。ただ社協としてですね、繰り返しになるのは私たちがやっているような、その居場所づくりのような、直接的な支援と言うのは、(社協としては)なかなか難しいのです、そういう、森田委員が、その他のNPOなりがやっておられるようなところを、どうやって手助けしていくことになるのかということが中心に、もう一つの柱としてなっていくんじゃないかというふうには思います。ちょっと余計なことをお話し過ぎましたけれども、私の方からは以上です。

あと他に何かご意見ご質問がございましたら。

じゃ、改めまして今までの話を受けて何か事務局の方から。

事務局

みなさん。ご意見ありがとうございます。お話を伺う中で、社協としてどういうことがこれからできるのかなっていうのを、すごく考えさせられました。かなり大きい幅広い分野なので、ヒアリングとかを随時行っているのですが、やはり基本を考えると社協はネットワーク作りとかコーディネート機能というのが一番、売りというか、今までずっとそれをやってきたので、多職種とか異分野、そういったところで、あと分野問わず、その年代とか問わずにコーディネートするようなことができればいいんじゃないかなというように私の方ではちょっと考えています。まだまだこれから今のお話とかも含めて形を作っていくので、また改めてご相談させて頂きたいと思います。ありがとうございます。

委員長

あと他にこれについても結構ですし、他の件でも結構ですが、何かございますでしょうか。よろしゅうございましょうか。

とりあえず、子ども・若者支援についてはこれで終わらせて頂きたいと思います。

<議題7 その他>

委員長

それでは最後にその他と言うことで、事務局の方から、何かございましたらお願い致します。

事務局

今年度も都内市区町村のボランティアセンター拡大センター長会議が開催すると伺っており、今年度は9月15日の金曜日で、会場が調布市で行われると伺っております。昨年は、板橋区で開催されたと思うのですが、通常のセンター長会議と違いまして、ボランティアセンターの運営委員の皆様や職員も対象になっておりますので、都合が合えば、ぜひご参加頂ければと思います。例年8月の後半に取りまとめの通知を送らせて頂いておりますので、そこでお返事を頂ければと思いますのでよろしくお願い致します。

委員長

ありがとうございました。

他に何かご意見がございましたら頂きたいのですが、いかがでございましょうか。

特に無いようですから、以上をもちまして令和5年度第1回小金井ボランティア・市民活動センター運営委員会を終了いたします。

次回、令和5年度第2回運営委員会の日程は、副委員長及び事務局と調整して改めてご連絡申し上げたいと思います。

<閉会>

以下 余白